



TITLE:

<VII>コミュニティ・ネットワーク 形成支援

AUTHOR(S):

溝上, 慎一

CITATION:

溝上, 慎一. <VII>コミュニティ・ネットワーク形成支援. CPEHE Annual Report 2017, 2016: 31-34

ISSUE DATE:

2017-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226149>

RIGHT:

Ⅶ. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善の取り組みは、情報戦とも言われるほど、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みを情報収集する必要があります。その上で、必要な事項を、京都大学全体や部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会、そこからコミュニティ、ネットワーク形成をはかるべく、「あさがおメーリングリスト」「大学教育研究フォーラム」「大学生研究フォーラム」の3つのシステムを構築しています。

1. あさがおメーリングリスト <http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

本センターが、2003年より10年以上にわたって提供しているサービスです。

- メーリングリストアーカイブ(検索機能付き)
- メール投稿フォーム
- ユーザー登録・登録解除フォーム
- メールアドレス変更フォーム

の4つの機能からなり、本センターや京都大学からの高等教育に関する案内が全国の関係者に配信されます。登録ユーザーからも、高等教育に関する各種イベント等の案内が配信されるので、全国の主だったイベントや今どのような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかを、このメーリングリストを通して把握することができます。

2016年12月末日時点で、ユーザー登録数は4,192名(2015年は3,429名)であり、投稿・配信数は年々増加傾向にあります(2014年490件、2015年621件、2016年944件)。全国の高等教育改革や改善に関わる多くの関係者は、あさがおメーリングリストに登録しています。

(溝上 慎一)

ASAGAO kyoto-u メーリングリスト

「あさがおML」は、京都大学高等教育研究開発推進センターに関する最新の情報をお知らせするためのメーリングリストです。参加(あるいは退会)をご希望の方は、「ユーザー登録・登録解除フォーム」で登録(解除)をお願いします。

高等教育に関するイベント等の案内を自由に投稿することもできますので、どうぞご利用ください。

<以下お断りです。あらかじめご了承ください。>

- *高等教育に関連しない、商業性が高いと判断される案内は、投稿されても、配信されないことがあります。
- *短い期間での同一案内の繰り返し投稿(再案内)は、管理者側で配信しないことがあります。最低2週間はあけてください。
- *アドレスの入力ミス、メールアドレスが使用されなくなった等の理由で一定期間エラーメールがくる場合には、管理者側で登録を削除することがあります。
- *システム管理のため、金曜日の朝～月曜日の朝は配信されません。その間投稿された内容は、月曜日の朝以降配信されます。

(更新日 2016年3月18日)

問い合わせ asagao@highedu.kyoto-u.ac.jp

- メーリングリストアーカイブ
- メール投稿フォーム
- ユーザー登録・登録解除フォーム
- メールアドレス変更フォーム

●ASAGAOメーリングリスト投稿一覧●

(91～100件/全3597件)

投稿日	お名前	内容
2016/11/29 16:21:49	坂詰 貴司 (芝中学校・芝高等学校)	●オセアニア教育学会第20回大会のお知らせ 12月3・4日に四国学院大学で第20回大会を開催いたします。
2016/11/29 11:49:46	大村昌代 (主体的学び研究所)	●12/17(土) 反転授業実践セミナーのご案内 (主体的学び研究所) 反転授業実践セミナー ～MyMediasite～
2016/11/28 20:16:31	龍谷大学エクステンションセンター	●龍谷大学社会連携・社会貢献活動報告会2016参加者募集！「最強の龍島」海士町長山内氏の講演会もあります！ 龍谷大学は地域に根ざした大学として、キャンパスが広がる京都。
2016/11/28 19:00:54	久保友美	●(ご案内) コミュニティ・ベースド・ラーニング(CBL)を学ぶ研修会ご案内 asagaoMLのみなさま お。

あさがおメーリングリストのウェブサイト画面

2. 大学教育研究フォーラム

(1) 大学教育研究フォーラムとは

本センターが1994年の設立以来20年以上にわたってなされている、大学教育改革や改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2016年度で第23回を迎えます。

大学教育研究フォーラムのプログラムは、①基調講演、②シンポジウム、③小講演、④個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)、⑤参加者企画セッション、を基本プログラムとして、年によってさまざまなプログラム追加します。

(2) 第22回大学教育研究フォーラム(2016年3月17日～18日)の開催

2016年12月現在、2016年度のフォーラムはまだ開催されておりませんので、ここでは2015年度の実績をご報告いたします。2015年度は、以下のプログラムで開催し(敬称略)、計816名(学内69名、学外747名)の方が参加しました。

① シンポジウム「高大接続が大学教育に及ぼす影響－私たちは何を理解すべきか」

報告者1 内村 浩(京都工芸繊維大学 教育研究基盤機構 教授)

「新しい入試の役割 —— 選抜から接続へ」

報告者2 川妻 篤史(桐蔭学園教諭 教務統括主任)

「学びと成長を見据えた高大接続・高大連携 —— アクティブラーニングでつなぐ、つながる」

報告者3 西岡加名恵(京都大学 大学院教育学研究科 准教授)

「高大接続の改善を見据えたカリキュラムと評価の改革 —— 京都大学教育学部特色入試の試みを中心に」

報告者4 北岡 龍也(文部科学省 高等教育局大学振興課 課長補佐)

「高大接続改革について —— その理念と高等学校・大学への期待」

司会・整理 松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)

溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)



シンポジウムの様子

② MOSTフェロー発表会「MOSTお宝鑑定団」

2015年度から、「明日からの授業をもっと楽しく、ちょっと楽にする」教育改善・授業改善のアイデアや手法を共有するための新しいツールであるMOS宝(モストレジャー)が新規に開発・運用されています。歴代MOSTフェローの先生がたが中心となり企画する本セッションでは、それぞれの実践の中から得られたMOS宝を発表し、それに対して審査員と会場が評価、コメントすることを通じて、教育実践知の蓄積と共有に関して議論しました。

報告者 長田 尚子(立命館大学 共通教育推進機構キャリア教育センター 准教授)

矢野浩二郎(大阪工業大学 情報科学部 准教授)

齊藤 弘通(産業能率大学 経営学部 准教授)

審査員 北野 正雄(京都大学 教育・情報・評価担当理事)

森 朋子(関西大学 教育推進部 准教授)

ピョーン＝オーレ・カム(京都大学 大学院文学研究科 特定講師)

司 会 村上 正行(京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 教授)



MOSTフェロー発表会「MOSTお宝鑑定団」

③小講演(8本)

- 古澤 修一(広島大学 生物圏科学研究科免疫生物学 教授)
「理系における反転授業ー知識の修得と応用展開能力養成の試みー」
- 松田 岳士(首都大学東京 大学教育センター 教授)
「教学IR担当者はどのような指標を扱うのか」
- 杉本 和弘(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)
「大学教育の質保証ー誰が何をどう保証するのかー」
- 溝上 慎一(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)
「高大接続・大学入試改革を理解するための高校でのアクティブラーニングの理論的・実践的展開」
- 藤本 徹(東京大学 大学総合教育研究センター 特任講師)
「ゲームデザインの枠組みで大学教育を捉え直すー高等教育改善のためのゲーミフィケーションー」
- 福島 真司(山形大学 エンロールメント・マネジメント部 教授)
「大学マネジメントにおけるIRの実質化と組織文化の醸成」
- 益川 弘如(静岡大学 学術院教育学領域 准教授)
「学習科学に基づくアクティブラーニングと評価の革新」
- 佐々木喜一(成基コミュニティグループ 代表/教育再生実行会議有識者 委員)
「教育再生実行会議委員の経験を通しての、これからの日本の教育、大学教育への期待」

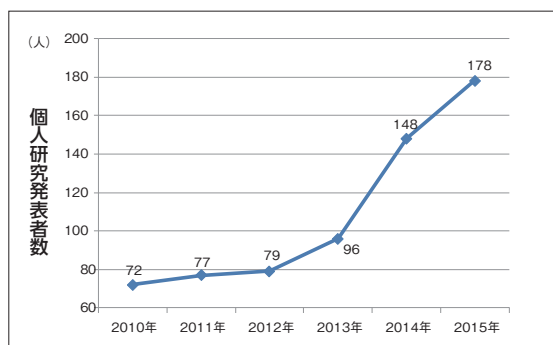
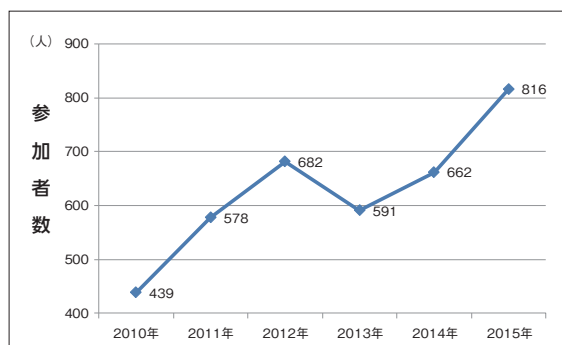
④参加者企画セッション(計11件)

ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションとなっています。2015年度では「ルーブリックの課題と可能性」「教育改善に向けてデータをどのように共有できるのか」「省察活動の効果的導入に関する研究の現在」など。

⑤個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)(計174件)

(3)成果と課題

図に示すように、この5年フォーラムへの参加者数、個人研究発表者数はほぼ増加傾向にあります。2015年度の個人研究発表への申込者数は178件であり、さらに増加しています。



参加者数・個人研究発表者数の増減(2010-2015年)

参加者数・個人研究発表数の増加は喜ばしいことですが、他方で、参加者数・発表者数に見合った会場・教室確保、参加者の多様なニーズにどう応えればいいのかかなりの苦労をしているのが実情です。

2015年度は大きな改善を3点行いました。第一に、2014年度から始めたポスター会場を吉田南総合館から百周年時計台記念館2Fの国際交流ホールに移したこと(写真左)。そこでは、休憩場も併設して、参加者同士の交流を図りました。第二に、参加者数を考慮して、百周年時計台記念館1F大ホールでの小講演(講師:溝上 慎一)を1つ設けたこと。第三に、ワークショップ(講師:中野民夫)(写真右)を小講演枠に設けたことです。



(溝上 慎一)

3. 大学生研究フォーラム

(1) 大学生研究フォーラムとは

年に1回、京都大学高等教育研究開発推進センター、東京大学大学総合教育研究センター、公益財団法人電通育英会とが三者共同で行っているフォーラムです。

近年の大学教育は、もはや単なる知識を教授する場だけでなく、学校から仕事・社会へのトランジションを課題として、資質・能力も併せて学生を育てる場として期待されるようになっていきます。大学生研究フォーラムは、現代大学生の姿を、調査結果を見ながら、また企業・社会の関係者の声を聞きながら議論する場です。

(2) 大学生研究フォーラム2016 (2016年8月25日)の開催

9年目を迎える2016年度のフォーラムでは、「経験で終わるな、メタに上がれ!」という問いかけでまとめて、大学・企業の最先端の現場では、いかなる「経験で終わるな、メタに上がれ!」がなされているかを明らかにしました。以下は、主なプログラムです。

- 中原 淳(東京大学 大学総合教育研究センター 准教授)

講演「企業人事のすむ道:経験で終わるな、メタに上がれ!」

- 溝上 慎一(京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授)

講演「大学教育のすむ道:経験で終わるな、メタに上がれ!」

- 大学、企業からの事例報告

須田 淳(京都大学 大学院工学研究科 准教授)

「創造的な技術者・研究者を育てる教育—工学部・工学研究科の事例から」

明和 政子(京都大学 大学院教育学研究科 教授)

「発展途上の脳とメタ認知—京都大学教育学部・教育学研究科の教育活動で大事にしていること」

安藤 直人(昭和電工株式会社 総務・人事部事業支援グループ マネージャー)

「新入社員育成プログラムでの経験を成長につなげる取り組み」

松本加奈子(大阪ガス株式会社 大阪ガス行動観察研究所 研究員/株式会社オーグス総研 行動観察リフレーム本部 主任)

「行動観察のビジネスへの応用」

(3) 成果

2016年度は、参加者同士の交流を充実させるべく、立食バイキング形式のランチ交流会を復活させました。会場の関係で参加者を350名程度に限定した結果、実際の参加者数は331名となりました。ほぼ期待どおりの参加者数でした。アンケートの結果「とても有益だった」「まあまあ有益だった」と回答した者は97%であり、高い満足度でした。

講演録(ダイジェスト)は、電通育英会の機関誌『IKUEI NEWS』に掲載されています

▶ <http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/transmission/forum/archive/>

(溝上 慎一)